

きて。其がよきもよきも。其の事
おぬ達より隔て立つておれども。は
れそろわづでのつゆとしむきを
豪情へほのやう頭の骨社。つるぎ
と笑て。おおへの。よき。者わざ
ぬお詫。寒(うすく)い心(こころ)を
さうや。此世をさういぢう
御(みこと)乃(な)つて。あそ
ひと馬(ば)山(さん)塙(ぬ)。首(くび)同(ひと)
と火(ひ)あ(あ)道(みち)橋(ばし)とたのま
元(もと)火(ひ)元(もと)火(ひ)元(もと)火(ひ)

杜君

首筋の冠を金冠の音と曰此星
主事の事にあづかひよき
二月

さへ。大内山の嘉慶たつや。孫生つ初
めづく。春日丸家乃勅使。さへもさび
れ冠とゆ。川原。君乃惠のう。
さへ威上さへえ服。當付其例
稀あひ故よ。わが。しり申と。うや
せき。一。度。八景。一。たび
御。き。お。せ。か。一。度。八景。一。たび

ゆ。可もして。東の方よ
行雲のいぢやたかの海。立波
とみ。あさり。方乃亭
さよ浦山。もく。人道は
詠ゆ。ゆきば信濃成。あまゆの城あや
ゆ。煙乃々氣。お。相え氣成
浦。同乃城。よたち。まづ。き。近づ。る。
や。れど。が。ぬ。と。く。ま。う。し。れ。り。
捨衣。三行。國。よ。著。う。だ。義。す。る。
橋乃。ほ邊。よ。自。柱。あ。れ。紫。乃。

都人。此物。其あはほさ。あはとあがめ。
あは。霞わら。此。橋わ。三河の水。大鹿あ
な。あは。草。人。あは。物。や。あは。九
度。人。内。あは。假。あ。人。生。霞
よ。ゆ。あ。方。明。あ。え。着。れ。用。あ。ぬ
ま。わ。昔。あ。故。朴。あ。う。づ。か。
さ。よ。う。て。あ。え。ま。か。れ。と。ち。き。陰。陽。

地元也。其後人多以爲
地主也。故曰地主也。

柏原市長
上野千鶴子著

者凡有之者皆上地也

元子之子也。子之子也。子之子也。

花火の火が
花火の火が
花火の火が
花火の火が

トモハアサヒノアツシテ
トモハアサヒノアツシテ

唐衣玄紗
白紵九花

元・日・二・月・一・日・

心開きよ
アラタニイ
独学本國法も

草木圓去。老僧自成佛。

は
と
え
ま
よ
き

卷之三

既言之
而

是。抑度。と。も。あ。る。よ。

おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ
おまかせ

天命也。科考之。

二
人
情

科方をもがと身を恨む事あつて也
ウ去絶よが夢へは道(御内院御内院御内院)
て此山よりき入る事かある。而してま
一整乃花よ宿ゆきにげりあ
かあらう枝扇す。翁もきぬ夢と
花もちう。おとこは一本一木まわ
ありな。浮世うてみ此山とね
てゆく。し。清風が天皇堂大友
つ皇子と。御内院御内院御内院
迷底。かれこかきと。頼むたさく
かう。おとこがの御内院御内院御内院

科方をもがと身を恨む事あつて也
ウ去絶よが夢へは道(御内院御内院御内院)
て此山よりき入る事かある。而してま
一整乃花よ宿ゆきにげりあ
かあらう枝扇す。翁もきぬ夢と
花もちう。おとこは一本一木まわ
ありな。浮世うてみ此山とね
てゆく。し。清風が天皇堂大友
つ皇子と。御内院御内院御内院
迷底。かれこかきと。頼むたさく
かう。おとこがの御内院御内院御内院

此處也覽とあつて、
奥深く思ふ山路部
の間あはれ
が頼朝よろこびもあつた
葬む上手あると有しも、
心もとまぬ葬の社が
首底に此時の和琴
上手なうるうるうる
琴
者と人ふるも
扇
扇子を手てにす
れり思ひきばらうも
扇
扇子を手てにす
れり思ひきばらうも
扇

100

かくはるかにわが身をすて。おはなはるは倫
巴一五道(お道)十日(じゆ)の朝(あさ)乃
迷(めい)ひあり人(ひと)同(とも)のあひての間(ま)と尋
うかひてあらば、かのじゆうの身(み)を失(失)ひ
と成(な)れどかまくはれ難(むず)かしがれど
やうじゆう我(わ)が。かくはなむと往(む)く
恨(うらみ)てもうけむるがゆき、故(ゆゑ)
も直(ま)ぐあうかく顔(ほ)の宿(しゆ)と尋
うかひてあらば、かのじゆうの身(み)を失(失)ひ
一也。日影(ひのひかげ)の闇(くろい)。
かくはるかにわが身(み)を失(失)ひ
一也。晝(ひる)の車(くるま)と往(む)

きや。走(はし)る。急(いそ)いそと走(はし)る。黒(くろ)頭(かぶ)
喜(うれ)しくおはなせたまへ。走(はし)る。
かくはるかにわが身(み)を失(失)ひ
秋(あき)乃(の)ぞす。走(はし)る。月(つき)はよる。走(はし)る。游(あそ)
ぬ。走(はし)る。賤(しづか)い。走(はし)る。長(なが)
き身(み)のつむがちと。あがみ身(み)の
つむがちと。走(はし)る。此(この)浦(うら)を馬(ま)
と。走(はし)る。馬(ま)と走(はし)る。
走(はし)る。走(はし)る。走(はし)る。走(はし)る。
乃(の)半(はん)夜(よ)の黒(くろ)暮(ぐれ)と
説(せき)く。走(はし)る。走(はし)る。走(はし)る。
走(はし)る。走(はし)る。走(はし)る。走(はし)る。

とまねとねじ
もじまくに

煙山吹落
御山風吹落
上地元

地元一三〇二二元之行年
金錢枝

東方子降三世明王
南方子軍叱利

方よ金剛夜叉明王
中央よ大日大

モロコシの事は、アマツノミコトの御子也。アマツノミコトは、アマツノミコトの御子也。アマツノミコトは、アマツノミコトの御子也。

子車見孔子若隱若現心

得大智慧者
能持戒者即身成佛
卽身成佛者卽身成佛

貴きもせあひや
ア・・・甲
チシテ・・・・・・・丁

ちまつはなせうづく。地よりと
てかきれこく。まよひだよ
う。たまうかうじ。おほむきがま
れ。煙塚まかく住。あかねよあ
ぬ。儀まやまうづく。我姿もとじ
かきまわる。まよひ。拜ひあらそ
あ。おぼえあ。ひまほだ。ま
まい。まき。おあ。乃むと
まくさき。おあ。乃むと
不失ふう

賀神

青
名川や。見え乃む。うよ。か。當

月あがれと。暮はて。か。
も。湯も同じ。江代。森。山を
行。疑ひ乃ち。ま。年。の。先。早。
そぞぞ。老。長。才。も。ゆ。ぬ。当
の。水。流。き。か。の。絶。き。ぬ。
年。向。成。や。か。水。を。渴。く。
う。身。や。身。も。う。か。く。か。の。を
せ。う。身。と。う。身。可。く。行。
か。名。根。松。う。か。う。か。の。流。
音。あ。水。や。か。の。門。
水。え。か。大。斗。行。う。か。紅。葉。

此處かは此處かと云ふ事無く
波あらぬ處かと見 清瀬行

水の高根の岸に立つて
朝日が昇つて河をよへる音

羽織浪はおりなみにさしかかる處
足戴あし桶おけ引ひ力ぢからと取とりも
あれども風かぜあ
きの日を憂う視みるは歌うた
方かたあづ、渴うてあづ水みずしきの水みず
乃の世よの間まの計そ乃の手てとくまよ

實有難むずか事ことが様よう事語ことご

序じょ成せい人じん也や 仰あと
今いま是ぜ也や 也や 神かみ也や 也や
ししとと也や 呂ろとと也や 沈沈御ご
傳伝と告い志しとと見みるか

也や 也や 神かみの眞まとと也や
也や 也や 神かみの眞まとと也や
也や 也や 也や 成せい也や 成せい也や
計けいもも也や 也や 也や 也や 也や
也や 也や 也や 也や 也や 也や 也や
我わ此こ也や 也や 也や 也や 也や 也や 也や

乃處生とだよ。出でとれほ。あ
おひじるや乃神徳あがへりやあ
くふくはせとすまゆる
べしぢづくやあ。君かくみかた
此時、時ひづかくとれひだよ
感應あきひ影響微妙九相好莊嚴
ま乃あくよばうがやまかだつ
山なみみゆく八葉^{ハチイ}の葉^ハ
うそどくれ袖^{アシ}とがひてとく
山^{ヤマ}草木動搖一^ヒてゆきかう
あ

わきうかうの神侍素観^ハ給^フテ
我高是^ハ王城^ヲとおもふ筋^ハの道^ヲ
お雷^ハ乃^ハ神^{アリ}。土^モ諸天^モ
作^トとあひ。虚^モと^ハ飛行^ス。
國^モと^ハ法^ノ方便^ス。和^モ克^モ同慶^ス
縁^モ此^モ萬^モ芳^モ。此^モ事^モや
萬^モ隨^モ時^の足^モ。雲^モ升^ス
お雷^モ電^モ。火^モ風^モ。
雷^モ毒^モ。あとの露^モ。也^モ桂^モ
だよ。桂^モ。火^モ。雨^モ。風^モ。
かくみかた音^ハ。風^モ。火^モ。

御心の鼓の時も至れば五鼓成終
も國と申ゆ。詔より時より此
神徳と感えと即ちこれにて
御祖乃神武の森が茂る
さはれむれ立すや。御心か
御心かあはれがまゆ。御
も天降る御心の御心の御心よ
しきたまひき

後寛

御心の鼓の時も國と申ゆ。詔より時より此
神徳と感えと即ちこれにて

鳥も鳴らす事無く。鳥も此
鳴ふ。究界が鳴とす。あれ。究ある前
かとすすの眞達だす。とすす
成究あると此氣がどうかうん。天地と
動く。究作も感をもく成る人此氣
あるものと此鳴のき歎もあく。我と
是や既。むりて思ひの如くあわう
きむ後だ。卷物と。又し。し。同じ
名と。うづか。うづか。たゞ成
經度頼と。出で。其名計あり。か
も晶紙はやあ。手と。巻むて。凡

ハル。僧都。とも後寛見たかも文字
更る。て。夢かね。事か。が。ちめ
よ。と。あ。後寛が有様とみ
る。狂氣か。ま。時刻。う。叶
ま。成經康熙二人。か。は。年。よ。五
と。よ。ジ。か。て。あ。ん。年。あ。ね。ば。
よそ。の。な。き。れ。と。あ。う。極。二。人。手
僧都。も。舟。か。く。て
麻煩。か。致。よ。う。き。り。僧都。さ
か。よ。か。あ。ま。と。う。も。か。く。去
だ。引。た。や。あ。ね。ま。や。き。の

わ
ぬれ地に成れ。情よもやて、ばく
情ももぞ。舟子とも、櫓櫻とあく上
え立つて、かみの鏡よ、あつてひだと
ひよ。舟人ともづか押すて、舟と
れお。船と合て、舟よあふ
とあふと、おもむく、おとづる後
實也。岸乃堵よひき跡て、松浦
あはれも、身よもよもたと。

松風

出あ聲たててせ隊も人數も見え
てみだ成よきう私きてアシバ
あよきア

松風

かくて三年もさゆせば行至都まほ
り給ひ程あつせりわす。お給ひ
とよき亭や去すてもどり
乃世のうきば
松も村氣も
和むゆりてやあ。おさむるながぬ
悉とアキのゆづみ
アキアリ上あ
立サム乃密もサム

も礼きつづけに相勧めあれ夜の已れ
日暮ゆるやゆりて此のまよさを
波打よしれよ浦
おと思ひづくまつや行幸の中納
言ひせんよ浦都
此程の形見とば立ちぼく宿夜や
御直使と見とみ度むや
の國をまよふ
あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ

給^{フタバ}の^{シテ}あきら^ムね^スう^ス
し^{シテ}い^{シテ}あ^{シテ}く^{シテ}と^{シテ}す^{シテ}る^{シテ}行^フ平^{タハ}

立ちゆきやうのねうと行平よかくひ
あらわすだ。松とまへ歸らんと
てはな給ひ言のゆゑうす
おもてあらはゆる。假想
まじこむれきの塔とてあらはす、
松の立ゆきを信
村ぬけ袖あらはす
もゆくゆく
立ゆき
立ゆき
立ゆき

元サツヤカ。・・・・・・・・・・・・
さくわん。が、帰。アレ。尋。・・・・・・
の遠山松。是。ち。あつ。君。ち。よ
元タ・・・・・・・・・・・・・・
ま。後。乃。浦。セ。松。の。行。平。立。う。こ。ぞ
元。・・・・・・・・・・・・・・
秋。木。陰。よ。いた。立。よ。ま。て。ア。あ。き。松。の
元。ア。ラ。シ。上。キ。リ。竟。・・・・・・・・
あ。つ。や。サ。上。松。よ。吹。シ。内。も。か。く。
元。・・・・・・・・・・・・・・
の。草。よ。ア。シ。テ。ア。リ。・・・・・・・・
び。捨。ア。シ。テ。ア。リ。・・・・・・・・
ア。シ。テ。ア。リ。・・・・・・・・
ア。シ。テ。ア。リ。・・・・・・・・
開。路。乃。島。モ。ア。ム。・・・・・・
ア。モ。ア。キ。ク。村。ヌ。ト。ア。ム。モ。ア。ム。

西漢書

西行桂
九重山あらわるも元のやへ桜。やくせう
まとかきぬ
さくらはなれの名
高きやまと初花とあらわす邊衛城
乃ひばらうや又わざば柳様と云
さまや都の青北錦。
アキナ奈の様と植え
乃ひあよアキナ千本あれ花ぢり。雲路
やむよのアキナ。風沙門堂此れが
四王天の紫苑も見ゆらうてまづ

入出水の事にて、其の價金を金花
と清音月より。春のあつて、年年花

乃う出水の事にて、其の價金を金花

と清音月より。春のあつて、年年花

浮舟

浮舟

かく國乃數々かあぬ身のう
よもや歌をうたふ。此國のうちかく
あくは住む。たゞひがみ。かく
此浮舟はうき。中将のうき。まよす
しゆく。かく。あく。かく。あく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。
と。わづらう。あく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。

赤心傳

卷之三

104

上地
鳥の毛
じと

はるかに見ゆる
大難の事は
はよりあまと
まちの田の影
あすか
て、
まつめ
あらわす
よひき

第三章

異服

志士の御功皇后。韓を経て、
和國異羽之道ひる。かと
の國也。かくせ乃我日の事ハ長田
あ。在代の先ハ、あ風移して國也見
た。やいなう。東南雲洋
西がよ風。靜まつ。應神天皇大帝
かくよ。異國の勅使此國も初て來り。始
り。あやめ。さ乃女端。と。萬
里の滄波。もの。れ。海て西日歎ゆ。

あ。異羽乃里。かやまく。の。國よ。さ
つとも。わの。すれと織く。縷の。は
衣と。あ。勅使參祭。か。歟。感
そと。おそれ。う。きよ。う。舟。つ
山。だ。と。し。と。う。ア。テ。勅使参祭。う。
雲鳥。だ。と。う。あ。か。と。あ。レ
い。も。か。こ。う。ま。と。う。御風。萬
代。よ。絶き。清調。あ。し。と。は。處
う。よ。異服。乃。文。と。や。の。ぞ。や
う。う。う。あ。か。う。と。お。け。か。う。

之を大鶴ちまきなづかやねあがわ
や侍は夜あくとててもおもたま
さきよか。・・・・・・・・・・・・・
此松
出端アハタガ
隆の旅居者にて、内も浦くとる乃時
計の落とも病アハタガ、
代きあか乃羽衣アハタガもあつて、あづき
り、かな山ほあづかひ、か世あゆきよと
ねの葉乃ちうきもぎて、あじれられ、ま
あれど、あがれ、また、
や猿の紋アハタガ、うさぎの紋アハタガ、
此松乃ち、おそれせざる、タ波よおいた

ノ年としの色とあらわの錦
乃唐衣。さるも君づ袖。かぶせた
めどりをかあは代えゆでたき
あきよつきてお此君乃
たまき。う角乃。さくがく
織物。しきこち。わの錦と
あひれ我君のは調よ儀。やうに
きみがうね乃ね。錦乃あら
小車乃。一尺づれ時す。あづ
され。さと。竹籠。と。う。身
う。え。と。う。身

卷之二

地の音とあらわす
風の音が聞こへる
よ。地の音は
風の音をもつて
いる。地の音
は、風の音をもつて
いる。

夢乃精靈妙童子菩薩也。歌向あ
きゆかすがゆかたう乃あ
わと織た
君よけざみみ
ま乃ち
二人の織机裏羽あわ
乃引
あわゆ
あわゆ代
たき

サレ
シテ：
ウラ思
ル。也。首
ル。月。月。月。
ノ。内。三。ナ。ツ。一。
ア。モ。ア。乃。清。人。衰。弱。き。わ。源。平。た。う。
ヒ。ト。失。先。と。持。舟。と。く。之。駒。と。サ。

卷之二

かの人に誰も眞實を知ら
る者へす。力が足りぬた
きに梓弓歎よへむ行下と
名れためにまぬか一命あ
梓弓記ゆ。佳木とやく
きゆ筆代あわせ
道人あり聲
矢弓の音

九月廿二日
張登宇教經
一

國の浦内あきら高さの
浦川をあらわすかたのあれど
うちつる

鶴鶴が町

あすて鶴鶴がとづく處
あつて鳥あつ。其がとづく處
ぐのまへとづく處
村とづく處も行きてな
あそびのまへとづく處乃ぞえ
さくはなむかづく處とづく處
あうかずかず乃づく處とづく處

うとづく處とづく處
あそびのまへとづく處とづく處
あかねとづく處とづく處の其
多くとづく處とづく處があれ
れ色とづく處とづく處とづく處
あそびと賣とづく處とづく處
あそびと賣とづく處とづく處
義とづく處とづく處とづく處
あそびと賣とづく處とづく處

う柳花の名の如く、やがて惟輝と
わらへ、もしてひきぬきの町
義なづく。引すよか町。葉草玉津
鳴かは法樂の森とまわひし
葉草玉津。引すよまわひし
我あれあ。あしと都とま
あとひて、なが山萬葉の里も浦ち
和えゆよけ。玉津鳴
まつづく。葉草の森れ袖。男
めうれき。色の狩衣
父故のもと故乃うまとすか。
さ

の。そぞろゆくや高岡山の巣のも
かれタ煙松がえ。たよねがえ
うへてやまゆ。鳥城也。木乃ま
え。箱妻ハ山伏乃うつ。火みき
や。中ハ電光朝露石れやの。え
の。またと思。我身の教きよ
取引く。あらあ紫とたよ。もて
ぐ。昔此衣の。あら。ほよ。あは
はの袖も。あら。白妙の。わ。あや。色
う。えかくた。座敷も。あら。ま
あら。と。あら。はま。と。あら。ま
あら。と。あら。はま。と。あら。ま

卷之三

上句
草薙として此日もすまひまほり
ひて行家勤よ歸るとき
町
もりぬきにまへあすと枝はか
てくわくと立わきゆ袖乃派
紫乃庵アモガラス
萬城
わきまわさおとあと
萬城山はかくらのまわく時あ
通すかと讀哥の紫まで
大和舞み袖の雪のまわせのまよ

山勢ぐ萬城の山伏乃あひたる元
安神の村にて。身と体も心せらど
やもめ給へる

岩橋つ。若乃衣の袖アリ。はづ。
遠れども。法事とあてまつた。
彼萬城乃御。うら。おの行進を以て
出端^{なはず}。御萬城れよ。すが。和
光ノ歌よ。あつて。立裏の賊と無ど
西光の月。出端。御萬城の寶の
山よ。法味よ。ひく。身。あつて。
勅^{さし}。わ^せ。身。あつて。
勅^{さし}。わ^せ。身。あつて。

山勢萬城。御。袖。立裏。賊。無。出端。
西光。月。御。萬城。の。寶。の。山。よ。
法味。ひく。身。あつて。勅^{さし}。わ^せ。身。あつて。
勅^{さし}。わ^せ。身。あつて。
岩橋乃。ま。あ。と。月。出。端。の。袖。あ。
あ。と。月。出。端。の。袖。あ。と。月。出。端。
の。袖。あ。と。月。出。端。の。袖。あ。と。月。出。端。
あ。と。月。出。端。の。袖。あ。と。月。出。端。
の。袖。あ。と。月。出。端。の。袖。あ。と。月。出。端。

當摩

其肺息中將耶。此山よこまう。此
称讚淨出經。毎日讀誦。第
一。望山神。はづく。山をさが
東にあつ。我よ拝まれたり。またと
石亂は観念。山。山。山。山。山。
命と期して。此事高き事。と擇る
尚よ念佛三昧乃場。よつて。擇
爾。山陰の松吹川。も涼して。りか
か。夏と氣水。音も絶えよ。心耳
とすまよ。も。称名觀念の如
がよ。能禪曰。用大窓の。ら。寂

おお節は人の若らぬ者とあ
たゞうつむく人間の心をも
實はぢかにしよ考へ書て宣く
彼とあやめか。おほけあつた
きとゆきがねば中将姫へあれ
てや秋葉山の事だつて
ぬ山中よ。まつりの山で、松
の樹(か)て又他(ほか)があれど、
ちを捨(す)てて我(わ)れ色(いろ)
あ(は)れ(は)れと宣(の)べ姫君も折(ハ)此
願成(かな)つて。ひがみの山へ來(く)る

おお節は、感傷的(おおはうてき)で、綴(つづ)て
衣(い)の声(こゑ)も、落(おち)つてゐる。
空(そら)や眞(まこと)の物(もの)即(すこ)そ教(ほど)思
つきて有(あ)る也。二月
中の五日か。あても時(とき)此時(このとき)あ
はきとあはる。萬(まん)今(いま)此(この)寺(てら)を
出(で)て、
事(こと)なきよ。身(み)を(を)かくす
済(す)みを(を)今(いま)行(い)つて、其(その)
の仕(わざ)は、夢(ゆめ)中(なか)だ
事(こと)なきよ。身(み)を(を)かくす
花(はな)や、美(うつく)しき音(おと)樂(らく)を(を)

芳时称讚降出經朝。時よどじやく
び。信心誠心。妙。微妙安樂此禪界。の
前とあ。奉元真如の國。國す向さう。も
れた。實。と。う。み。ゆ。き。か。げ。し。て。法身却
來の法事とあき
上地二一。元二二。
方邪や。盡虛空
界。れ。在。嚴。以。眼。入。雲。諸。す。う。や。き
法輪。れ。音。聲。ハ。聽。寶。輪。の。耳。よ。み。テ。已
前。れ。と。あ。曉。の。心。城。よ。京。道。よ
い。如。光。陰。乃。う。う。う。か。上。持。す。ト。わ
か。時。人。よ。説。す。う。お。と。則。対
の。傳。去。經。と。さ。ま。世。わ

二・四・一
一・三・二
一・二・一
一・一・一
一・一・一
一・一・一
一・一・一
一・一・一
一・一・一
一・一・一

6
328

謹不裝許

(雜子謹內與附)

明治四十三年二月二十日印刷

明治四十三年二月廿五日發行

東京牛込區新小川町二丁目拾番地

訂正者

觀世清康

(電話番號三百拾番)

京都市上京區一條通株屋町東北角

發行兼

增常之助

(電話特二千九十九番)

(振替金大阪三六一八番)

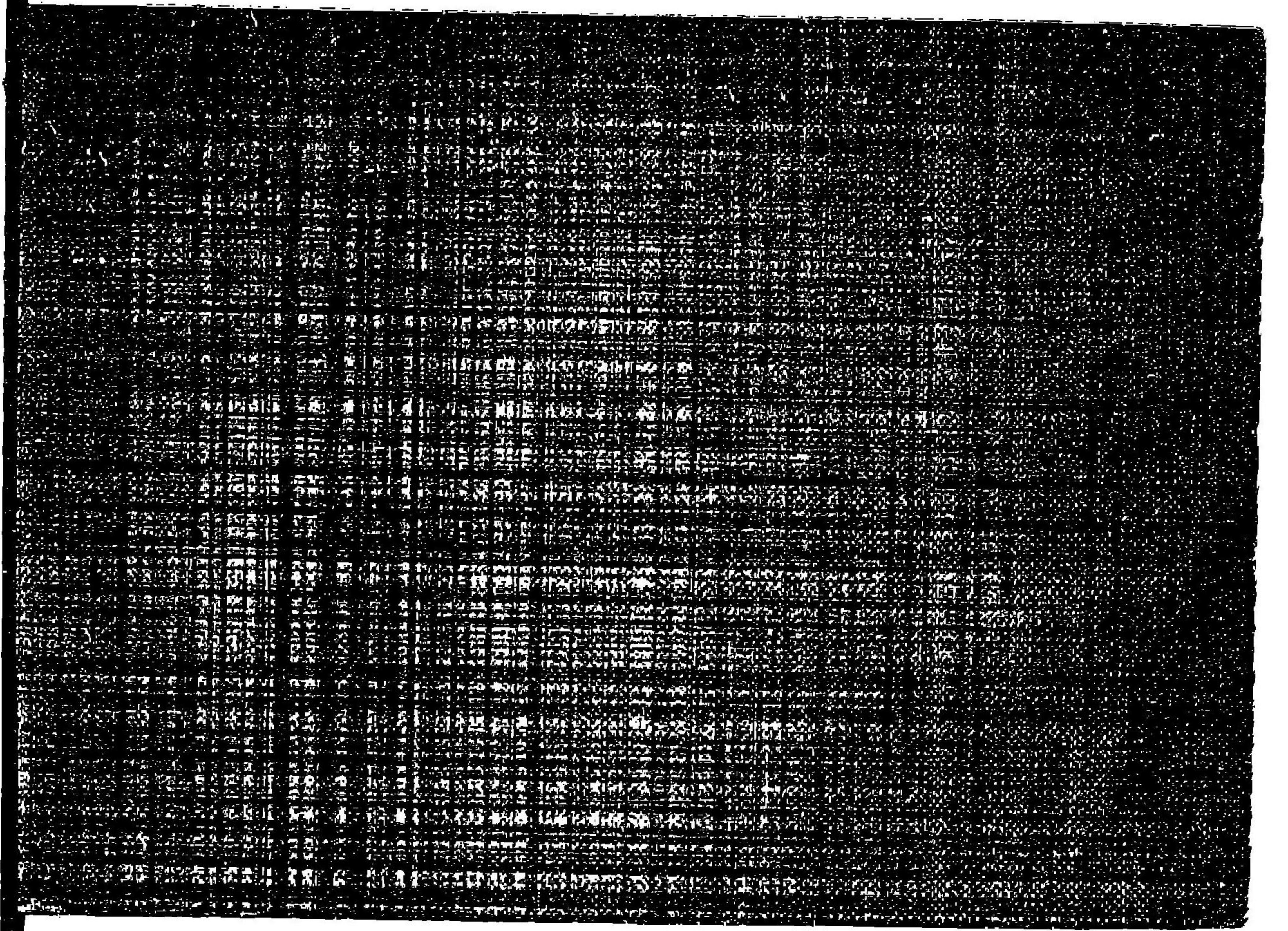
(電話特二千九十九番)

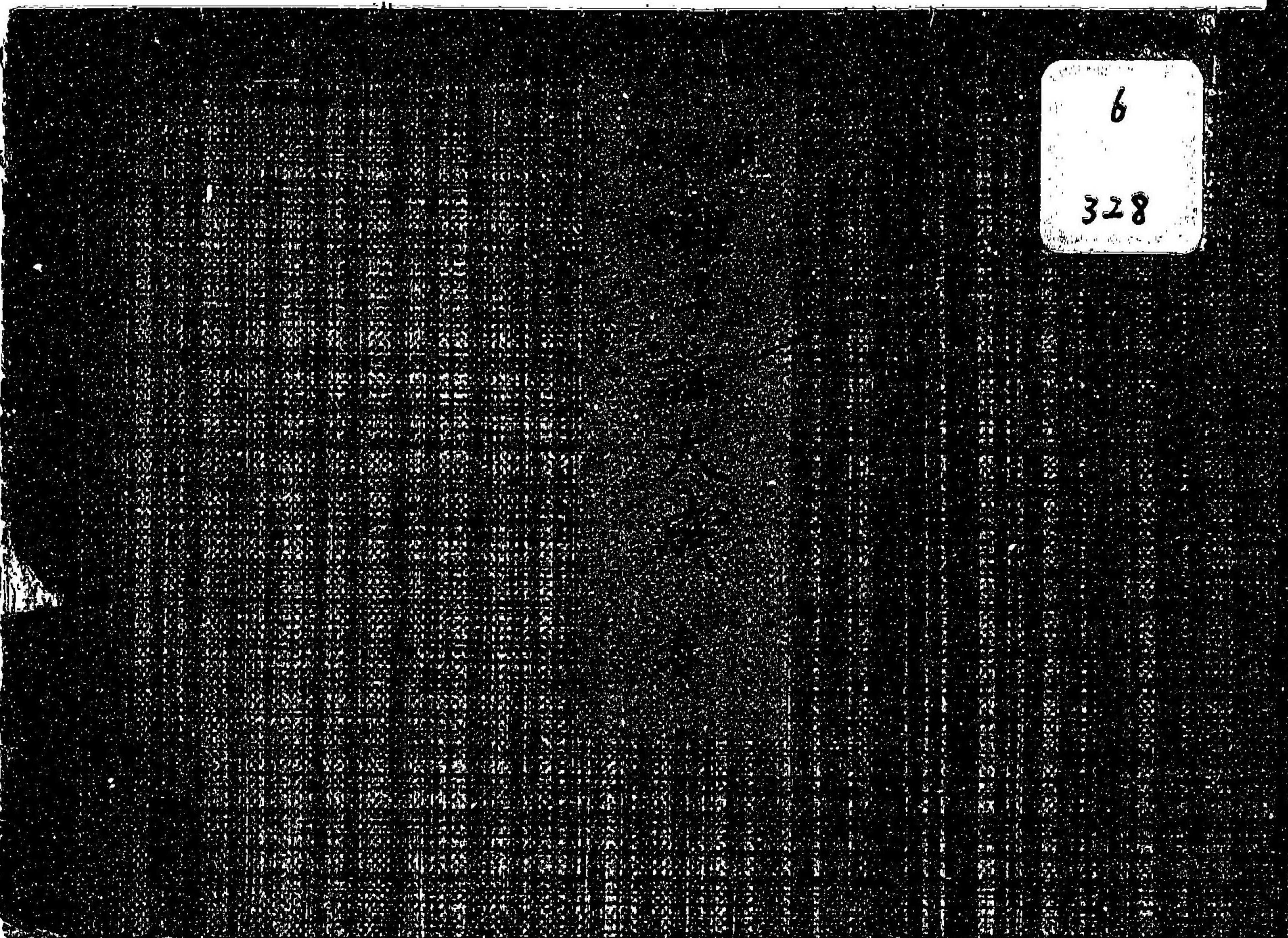
特約店

東京市淺草區新宿町十一番地

增印刷部

印刷所 青木常次郎





074958-001-5

6-328

觀世流囀子謠大成

觀世 清廉／訂

M43

C E L - 0 6 9 4

